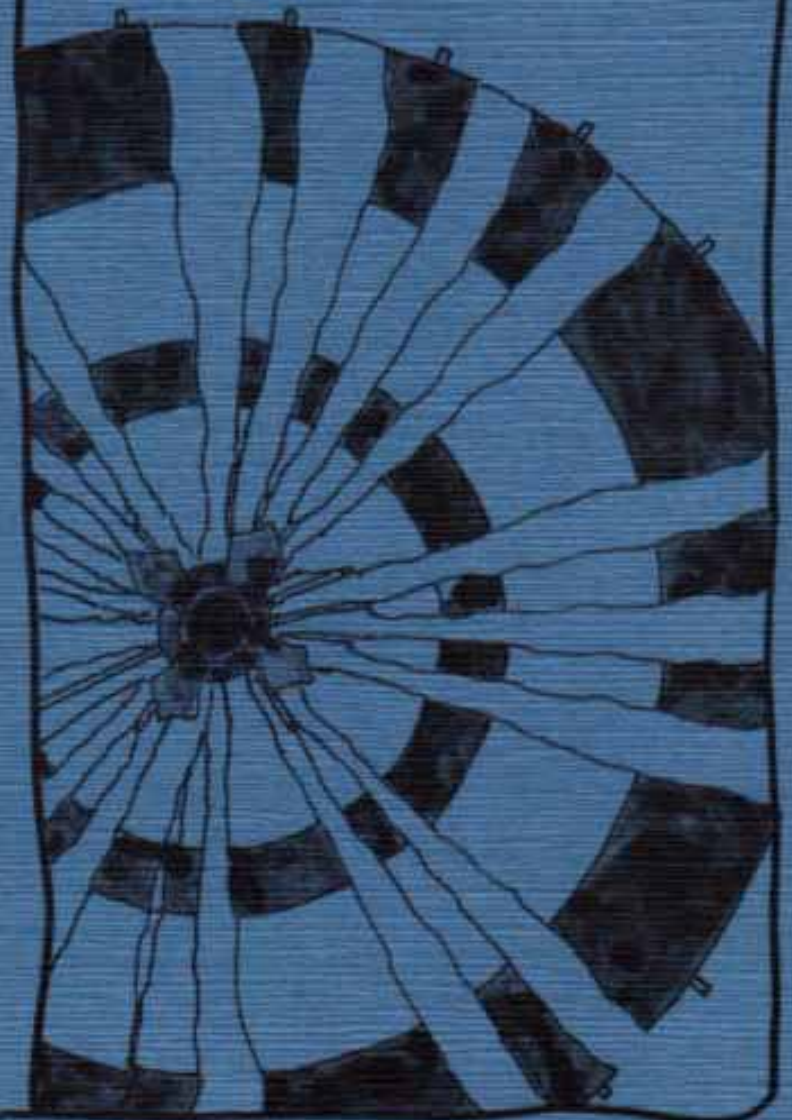


# やぶれ傘



一一七号  
二〇一二年八月

釣台の方へゆく徑草いきれ	根橋宏次
空蟬のどこかへ消えてしまつた日	きくちきみえ
小判草川の向うでへり離陸	大島英昭
まだ空の少し明るく初螢	青谷小枝
小流れにトマトを冷やす茶店かな	廣瀬雅男
さくらんぼのペアーが多い午後のお茶	北久保 勲
ロボットがぐつたりとする夏の果て	小山よる
夕月が黄色くなくなつて蚊食鳥	藤井美晴
傳次郎の壺持つ写真青嵐	瀬高酒望
畑道に土ほこりたて夕立ち来る	白石正躬
短冊を食み出る児の字七夕竹	渡邊孝彦
菜園にかがみて茄子の花ながめ	秋山信行
縁側の靴脱ぎ石や雲の峰	天野美登里
青芝に玩具ひとつが残されて	有賀昌子
公園は夾竹桃に暮れゆけり	安藤久美子

## 抄 集 句 傘 大 崎 夫 選

雨ぼつと鬼灯市の帰りしな	木村瑞枝
白シャツの行列昼の弁当屋	倉澤節子
雑草も我が家のたから夏の庭	黒澤次郎
星涼し誰も渡らぬ歩道橋	小泉里香
カーナビが「道なり」と言ふ風は夏	柴崎和男
雲厚くなりて卯の花腐しかな	萩原溪人
この猛暑口数減つてくる家族	萩原久代
スカイレストランの絶景けふる驟雨かな	箕田健生
青田風たも持つ子らの駆けてゆく	村田 武
梅雨あがる犬の散歩は六時から	森 美佐子
鳩時計聞きつつ日覚む涼新た	山本久枝
麦の穂の先を帽子の列が行き	石原健二
「男性用日傘あります」との楷書	岩藤礼子
地団駄を踏んで泣く子の夏帽子	江口恵子
糠漬の手はずはよろし茄子胡瓜	奥田温子

柿若葉重なり合うて小さく揺れ  
銭葵飛び出す猫の疾きこと  
蜘蛛の囀をひとつ払ひてまたひとつ  
早朝のそば屋のバイク半夏生  
走り梅雨帽子にポツとあたる音  
螢袋は白き小石の隙間より  
山桃のひとつ砂場の脇に落つ

神山市実

暮るるころ石榴の花に少し雨  
梅雨に入る卓に大きな赤絵皿  
蚊遣香けふいち日の終りけり  
雨ぽつと鬼灯市の帰りしな  
鉢植糸の鷺草ひらく午後は雨  
校庭に出水砂場が沈みをり  
山盛りの氷レモンに匙を入れ

木村瑞枝

白シャツの行列昼の弁当屋  
山桜桃ポンプは錆びし音をたて  
縁側のある家朽ちて枇杷は黄に  
青ぶだう今日は朝から晴れてをり  
子らはしやぐ蛇口に小さき虹の出で  
コーヒーを手に片陰をオフイスまで  
夏大根ざつくり切つてぬか床に

倉澤節子

川向うよりムシクイの声とどく  
アカシアの花散つている川ほとり  
ただ歩くことにも一理胡麻の花  
おだやかな雨が来てゐる山法師  
雑草も我が家のたから夏の庭  
とば口に海老根一鉢置く山家  
羊蹄の花咲く土手を散歩する

黒澤次郎

濃い色のサングラスして眠る人  
庭に咲く白き芍薬雨催ひ  
シロギスの魚あたり信り身体に響きけり  
巢立ちしと思ひたる巢に燕の子  
新築の家の戸口に竹煮草  
赤城より風わたり来る麦の秋  
流れ来る雲はいつしか夏の雲

小池一司

長椅子の戻らぬ凹み梅雨に入る  
長靴に兄貴の名前かたつむり  
片陰に猫とタクシー運転手  
星涼し誰も渡らぬ歩道橋  
西日差す棚の真つ赤なマトリョシカ  
風鈴や寝そべる犬の上目遣ひ  
くるぶしの蚊を払ひつつ塩むすび

小泉里香

教会の屋根は水色梅雨明けて  
芍薬の五本抱へて壺探す  
金沢より葛切届く午後三時  
お向ひの枇杷の実袋外されて  
店の先にはやつやつとさくらんぼ  
夏の坂よぎる散歩のブルドッグ  
今年また袋小路に半夏生草

小巻若菜

夕日射す土手に出水の跡たしか  
浴衣には硫黄のかをり小湧園  
蕎麦すすりまた湯につかる夏の夕  
あんと五人鰻重を待つ夏の昼  
焙煎の香りに目覚め朝涼し  
雲の峰階段降りて妻を待つ  
夏休みケークキ携へ娘来る

坂本和穂

信号を待つ間見てゐる山法師  
 湾を出る船に卯浪の打ち寄せる  
 屋上にソーラーパネル五月晴  
 青嵐芭蕉の句碑の文字消えて  
 歴代の庵主の墓碑が緑蔭に  
 白桔梗柱に残る古時計  
 道端のお地藏様に夏落葉

佐藤 稲子

長柄鎌で藻を刈つてゐる夕べかな  
 偏西風に硝煙がのる春逝けり  
 ハクビシンの足跡深く田打ち後  
 南風<sup>えば</sup>原の風の甘庶や慰霊の日  
 西方庵の艇友の墓夏安吾  
 谷間の清水に生かす心<sup>西方庵<sub>ニ</sub>尼等</sup>太  
 代掻きに俄に曇りきたりけり

眞田 忠雄

梅雨の日の訪問介護入浴車  
 カーナビが「道なり」と言ふ風は夏  
 六軒の建売のある青田道  
 マリンバのジャズフェスティバル濃紫陽花  
 蟻の這ふ島原受難供養塔  
 伊勢丹の手提げ袋にアロハシャツ  
 夏蓬少しはなれて精米所

柴崎 和男

裏木戸の風に梅雨入りの気配あり  
 梅雨出水道路にあふれ流れけり  
 湧き上がる草の匂ひや梅雨晴間  
 被らふかけさも迷へる夏帽子  
 片陰を探しあぐねて遠回り  
 三分で散髪済みて夏帽子  
 戦争はいらなるといふ端居かな

高橋 均

滝壺へ流れは落ちて泡となる  
 軒の巢に口を並べる燕の子  
 薪小屋の主となりし青大将  
 ポリポリと音も楽しむ胡瓜かな  
 白シャツにシャボンのかをる少女かな  
 岩木山より吹く風のなか袋掛  
 そら豆に今日は余分に塩を振り

高橋宜治

出所せる重信房子迎へ梅雨  
 渋滞の埼大通り栗の花  
 鉄塔が水面に並ぶ田植あと  
 水中花LP盤は空回り  
 単線の踏切の音南風吹く  
 風渡る歩道橋から梅雨の月  
 水たまりを避けぬ幼子梅雨上がる

竹内文夫

バス停のそばに錆びたる額の花  
 忙しきナース引き止め青葉風  
 合席の小さな蕎麦屋夏帽子  
 軽井沢一人で老いる釣忍  
 号外の活字大きな油照り  
 落ち蝉はゆつくり四肢をゆがめをり  
 てつぺんに空高々とひまはり咲く

手島百合子

寺の事子等と語りて盆の月  
 指の先足の先まで踊りけり  
 古井戸の蓋青々と盆の月  
 朝焼や男ひとりの歩の速し  
 秋近しそば屋に杖を立てかけて  
 くみ置の水減りやすき猛暑かな  
 夜濯や手のひらほどの物洗ふ

中島和子

島よりの無農葉なる夏蜜柑  
よその子の成長はやし柏餅  
児童等の棚田で田植糸雲白し  
夏点前茶巾を絞る水の音  
洗ひあげし青梅かをる夜の厨  
緑蔭をぬけくる風や昼ひなか  
沢音のとどく山径額の花

貫井照子

野口希代志

強風に煽られて夏つばめ二羽  
廃屋の扉のゆがみぬる薄暑  
麦秋の中走り行く引越便  
切通しの空の狭しよ竹の秋  
マスクとりリラの香りを確かむる  
くちなははに山路邪魔され回り道  
かき氷押してつぶして掬ひをり

萩原溪人

雲厚くなりて卯の花腐しかな  
てんでんに尾鰭で泳ぐ鯉幟  
花檣香る田舎の離れ家に  
見上げれば孫の笑顔や立葵  
溝川は今ほせせらぎ目高棲む  
紫陽花に揺る木漏れ日御朱印所  
花茨ひつきりなしにダンブカー

萩原久代

旅先で作る藍染夏暖簾  
カーネーションの花の中に入れらるる  
この猛暑口数減つてくる家族  
目も口も喜んでゐる夏料理  
贈られし新茶をすぐに飲んでをり  
帰省子にハグされてゐる祖父母かな  
明易し朝の散歩の道に鳩

◇9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	7日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	17日(水)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	3日(卯)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	4日(水)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	4日(水)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	秋山信行
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	新宿御苑	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。  
 10月7日(金)のなごみ会は武蔵浦和コミセン第1集会室です。  
 10月16日(日)の吟行。  
 集合 10時、新宿御苑・新宿門・チケット売り場前。  
 吟行地 新宿御苑。日本庭園→バラ園→大木戸門→WEP  
 句会場 WEPのあるマンションの7階会議室。

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎090-6127-3140  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

後自片駅白五ど  
 後転陰前南月く  
 ひ車にに風晴だ  
 とりを人救やユみ  
 夫のし急ひボの  
 の嫌て増車始が  
 ひな紫ゆるの道  
 メ陽く夕のギを  
 ロ花く夕タ剥が  
 ン続骨立一し石  
 食く董立手し灯  
 ふ坂市るにる籠

日高みち子

七甲何昔幸菖結  
 夕羅時読あ蒲ば  
 や干もみり田れ  
 体しよりししのし  
 温の茅の本友八神  
 計の輪の読のつ橋籤  
 は姿をく返日や渡は  
 九見ぬぐるす梅四葩咲く  
 度ぬ日人まばり  
 近日照り

橋本美代